

「平和を考える絵本展と奇跡の京島三丁目」ミニツアー

昨年「女技会9月定例会」で京島のお話しを伺った中島明子さんと一緒にキラキラ橋商店街周辺を歩き、商店街の方にお話しを伺いました。

案内人 中島明子（NPOすみださわやかネット理事長）
日 時 2019年3月9日（土）11：30～夕方まで
場 所 東京都墨田区京島3丁目 キラキラ橋商店街とその周辺
参加費 資料代として300円 ランチ代は各自支払い
参加者 加部さん、戸川さん、西岡さん、浜田さん、前澤さん、武藤さん、
地域誌「すみだノート」編集長の刈谷さん、住総研の岡崎さん
担 当 中島明子、東由美子、木崎京子

キラキラ橋商店街から見る墨東のまち —女技会すみだミニツアーガイド—

3月9日（土）は天気にも恵まれ、予定通りにズレながら、戦前からの墨東長屋を4つ覗き、同じく改修したすみまめカフェでの昼食を頂くことができました。防災まちづくりのキラキラ会館とコミュニティ住宅・路地尊井戸2か所は外観だけ。各店舗の若者店長さん、すみまめカフェの店長の渡辺さん、キラキラ橋商店街の事務局長大和さんから、女技会の方大歓迎で話を頂き、私も勉強になり感謝！フリーペーパー「すみだノート」の刈谷さんも同行し、住総研の岡崎さんは途中から。ツアーを提案して下さった東さんが参加できず、また古居さん林屋さんも欠席だったのは残念でしたが、女技会のメンバー8人で春まじかな京島三丁目をハイカイ。

私たちのNPOのキラキラ茶家にもお越し頂き、ありがとうございました！絵本をゆっくり読んで頂く時間はありませんでしたが、雰囲気は味わって頂いたでしょうか？

また9日のツアーに参加できなかったからと、廣田さんが翌日の午後のイベント「奇跡のまち京島」に参加され、東京大空襲の語り部89歳の星野雅子さんのお話しを録音して下さいただけではなく、テープ起こしまでして下さいました。心から感謝です。

それにしても、京島三丁目、キラキラ茶家を中心に、80歳を超える元気な方々と、若者（私も入る時がある）のアートやまちづくりの発信に、私のゴチゴチの石頭が、少しずつ柔らかくなっているようです。（中島明子）

まちづくりデータ

1 まちづくり事業用地の取得 (平成28年度末現在)

取得面積 約13,844㎡

2 道路拡幅整備 (平成28年度末現在)

1) 6~8m道路拡幅整備: 延長 約713m

2) 24m道路拡幅: 延長 約1,776m

(6割程度含む)

京島三丁目地区(旧区)整備事業による総戸数58m(含む)

3 コミュニティ住宅 (平成27年度末現在)

住宅 17棟 173戸

(住戸94戸、70㎡未満の住戸が24戸(15%))

店舗・作業所 5戸

4 その他

1) 緑地整備 20箇所 (うちポケットパーク4箇所)

2) 雨水貯水槽 14箇所 166トン

3) 集会所 2箇所

4) 防災関連施設 3箇所



●京島三丁目第6コミュニティ住宅
(京島三丁目6番)



●雨水ポンプ(こぞう一休)
(京島三丁目15番)



●京島三丁目38番から見た11号線



●京島三丁目28番から見た11号線



- 京島三丁目地区防災街区整備事業区域
- 助成制度により建設された住宅
- 助成制度により除却された建物
- コミュニティ住宅
- 既に計画職員がある道路
- 主要生活道路(整備済み)
- まちづくり事業用地
- 雨水貯水槽・防犯用貯水貯水槽
- 災害用マンホール設置箇所
- 防災取組ベンチ
- 防災関連施設
- 広場・緑地
- ポケットパーク
- ソーラー照明灯



●京島三丁目防災広場
(京島三丁目31番)



●京島事務所(京島会館1階)
「通称京島まちづくりの駅」
(京島二丁目15番5号)

(一般財) 墨田まちづくり公社発行の「京島地区まちづくりニュースNo.33」の地区に見学箇所をプロットしました。



亀戸駅に11:30集合。路線バスに乗って明治通りの「橘通り」下車。電車最寄りの曳舟駅から距離があるので、中島さんはいつもこのルートで行くそうです。



1. sheepstudio

5軒長屋の一つを改装したスタジオ兼レンタルスペース(A)。この周辺の建物をいくつも手掛けている建築家の手による改修とのこと。あまりいじらず、元々の感じを残している。関東大震災以後に建てられたもので、室内露出の軸組は再使用と思われる部材も使われている。お隣はクリーニング屋さんが営業中だが、2階の界壁を一部開けてギャラリー増設。「版築の壁」を作成中。



2. シェアカフェ「爬虫類分館」

「爬虫類」とは関係がなく・・・こちらも長屋を改修したカフェ(B)。真ん中の大きなテーブルが印象的。日替わりで、店長もメニューも変わるカフェ。普段は違う仕事をしている方が週一(ときには月一)で店長さんに。お話しを伺ったのは丁度お昼時で・・・いろいろな年代のお客さんで満員でした。



3. 仮面屋おもて

仮面専門店(C)。もともとは演劇をされていて、道具としてお面に興味を持ったという店長さん。出店前からインターネット販売はしていて、広域からお客さんがくるので、駅前にお店を持つ必要はなかったとのこと。昔の、今の、いろいろな国の、様々なお面に圧倒されました。



4. キラキラ会館(京島第2集会所)

1階のキラキラ会館は区民のための有料施設(D)。商店街組合が中心となって、自主的に管理・運営。京島3丁目第8コミュニティ住宅(10戸)と併設の4階建。2000年竣工。3階には防災備蓄倉庫がある。雨水貯水槽に繋がる「キラ前一休」と名付けられた防災井戸が2つ。手押しポンプを操作して水を出してみました(E)。やはり試さずには…。



5. すみまめカフェ(居宅介護支援事業所併設)

お花屋さん+αの店舗を改修し、居宅介護支援事業所を併設したカフェ(F, H)。2015年OPEN。地元作家の作品やパンの販売も。お洒落なランチ(桜色のデザートとお飲み物付で千円!)を頂きながら、代表の渡邊宗貴さんにお話しを伺いました(G)。住民の人が気軽に立ち寄れるカフェを介護事業所と一緒に作りたいという構想は最初から持っていたそう。最近、子どもたちも呼び込みたい!と、英会話塾やカフェ塾(月極おやつ付で放課後勉強を見る)の試みもしているそうです。



▼
ランチの時、一般参加のおふたり、地域誌「すみだノート」編集長の刈谷さん、住総研の岡崎さんに、少しだけお話しを伺いました。刈谷さんは、創刊号「特集よみがえる墨東長屋」を参加者全員に！おふたりとも、もっとお話しを伺いたかったです。またの機会にぜひ。



6. キラキラ茶家（NPOすみださわやかネット運営）

中島さんの連載（定木NO.402）や、昨年9月定例会（定木NO.406）に登場するキラキラ茶家。八百屋さんを改修したもの。月曜日は囲碁将棋の日、水曜日は住宅相談、火・木は墨田区社会福祉協議会が「地域福祉プラットフォーム」を開催、月1回は「すみだ街かど食堂」開催など、地域の寄り合い所、相談所として活動。道行く人たちと親しく挨拶を交わす様子を、普段の活動がうかがわれます。



▼
ここで、キラキラ橋商店街事務局長の大和和道さんから、商店街の歴史や役割を伺いました。そして、必要とされる商店街であり続けるための努力—若者の力も取り入れた新しい動きやこれからの構想についても伺いました。商店街は地域コミュニティの「担い手」であり、商店街のイベントは防災・防犯訓練の役割も果たしているとのこと。40年間、コミュニティ活動をされてきた、説得力のある言葉でした。



▼
そして「平和の絵本展」中島さんの絵本のお話(J)。地下倉庫に沢山ある絵本の中から、戦争と平和に関係する本を並べたとのことですが、大変な数です。話し足りない、聞き足りないうちに、時間が来てしまいました。昭和20年3月10日の東京大空襲の中を燃え残った奇跡の京島。それに相応しい「平和を考える」催しは、翌日もあるとのこと。ここで中島さんとはお別れをして外へ出ると、お行儀の良い町猫がお出迎えです。



7. サテライトキッチン

お向かいの小さなハーブティのお店。長屋を自分たちで改修した…とお洒落なホームページにありました。満員で入れませんが、前澤さんがテイクアウトしました。

▼
多くのお話しを伺いながら、楽しく巡って、あっという間に夕方です。通りのお店でお惣菜を買って、商店街を後にしました。

古い建物を直して使い、そこでのコミュニティを作るために努力と工夫をしている人たちがいる。そしてそれは、結果的に教科書とは違う「防災」に繋がるのですね。（報告：木崎）



楽しいリノベーション見学 ～すみだミニツアーに参加して

戸川 理子

キラキラ橋商店街めぐりで、5つのリノベーションを見学しました。

共通点は・・・

（外装は正面を除いて手をつけない。）これは建物の一部を借りていてオーナーが2階に権利を持っていたりするためです。

（内部も必要以上に手を入れない。）コストに関してはシビアです。逆に以前の名残があるので味わい深くもあります。

そのかわり知恵を絞ります。たとえばギャラリーのsheep studioは長屋の界壁に一部穴を開けて2階だけ隣も使用しています。（下の写真）

ソフト面ではさらに柔軟な発想をします。すみまめカフェは訪問介護+おしゃれなカフェという珍しい業態ですが、子供の居場所を作ることも始めています。中島さんの拠点のキラキラ茶家は、日替わりで囲碁会館や住宅相談会場になります。

必ずしもやる気のある店主さんばかりではないとのことでしたが、さまざまな試みが街を明るくしているようでした。

猫がウロウロしている素敵な商店街でした。

中島さん、ありがとうございました。



▼左写真の長屋の界壁断面。



◀ 関東大震災後に建てられたというsheep studioの長屋。さて、どこからどこまででしょう？

3月定例会に参加して

浜田 幾恵

毎日の夕食の買い物は、近くの商店街を一通り歩けば殆ど揃ってしまう。そんな商店街が昔はどここの町にもありました。そんな頃を思い出させる雰囲気、このキラキラ商店街には少しありました。古い建物を利用してギャラリーやレストランに上手く使っているのも、この商店街を楽しいものになっている。古い建物は壊して建て替える、そんな考え方を見直すきっかけになる魅力的な商店街でした！中島明子さんの蔵書の絵本を展示してい

る部屋はとても魅力的で、いつまでも読んでいたかった。長年この商店街や町内会に関わってきた中島さんに皆さんが信頼してしている様子が伝わってきた。中島さん、楽しい解説ありがとうございました。

キラキラ散歩

加部 千賀子

大空襲の被害を奇跡的に免れた向島橋商店街は、公募で小学生案に決まり、「キラキラ橋商店街」と名を変え、手を加え、生き続けています。

いわゆるリノベで、商店街は生まれ変わりつつあります。古い長屋の佇まいを残し、中は木造スケルトンに。土壁の断面や古材の仕口が見え、昭和の香りが漂います。温もりを感じ、思わず戸に手を掛け、「おじゃましま〜す」と、入ってみたいくなる。一方、塩ビ板とアルミ角材で構成したお店も。ドア高は低く、現代版躰り口といったところでしょうか。外観だけでなく沢山の仮面を収集して販売。ユニークです。手に取り被るとふっと、気持ちが変わる、別人になる。



ずーと住み続ける方、以前からの商店主、まちづくりの支援者などの方がたをバックに、若者が自由な発想で参加しているのがいい。街に活力を感じます。カフェや休憩所に座っているお客さんが、ガラスの窓越しに顔見知りの道行き交う人に手を振ったり、挨拶をしています。お店の間口が広く、道路幅がそんなに広くないからでしょうか。猫もノンビリお散歩です。

最後に、名物と言われる品々を皆でアレコレ品定めして買う。メンコロ、ハラミの塩焼き、チキン餃子、銀座のショップに卸しているイチゴミルクアイスクリーム。心がキラキラになって、帰路に就く。凍ったアイスクリームは帰宅時には丁度食べ頃。`ほのぼの`も今晚の酒の肴だ。



撮影：西岡麻里子さん▶

キラキラ橘商店街を見学して

前澤 淳子

お天気に恵まれた春日和の日に向島にあるキラキラ橘商店街をお散歩。長屋を借りてお店を開いている若い店主に、お店を開こうと思った経緯やリフォームの内容など、お聞きしてきました。みなさん営業中にも関わらず親切に笑顔で迎えてくださいました。日頃、中島さんが真摯に商店街の方々と接してらっしゃるからこそお話を伺えたのだと思います。ありがとうございました。

最後にお話しされた商店街協同組合の事務局長、大和さんは戦前の様子がわかる資料とともにキラキラ商店街の今をお話してくださいました。今の商店街には食品を扱うお店が多い反面、日用品を扱うお店が少ないこと。少しでも商店街に足を運んでもらいたいと、スーパーを誘致したこと。まだまだ、シャッターが降りている店舗が多いが、住まい兼用として使用されているため、貸し出しが難しいこと。これからの商店街のあり方として、近隣の地域や学生と連携することを考えていること。など、全長 470mの商店街はまだまだ、発展途上の場所でした。



▲撮影：刈谷仁路志さん

京島ミニツアーに参加して

武藤 順子

集合場所の亀戸は初めて降りる駅でした。東京育ちですが、馴染みのない地域です。キラキラ橘商店街は、駅から離れた昔ながらの商店街でした。佃煮屋さん、餃子屋さん、果物屋さんのアイスクリーム、みんなおいしそうです。

東京大空襲でも焼け残った建物に、作品展や仮面屋さん、日替わりのカフェなど若い人のパワーであふれていました。災害にも負けない人情を大切にすてきな街でした。なぜ焼け残ったのか、知りたいです。

一人で先に帰る時に、駅への道を八百屋さんで尋ねたら丁寧に教えてくださって、うれしかったです。

担当された中島先生、木崎さん、みなさん、ありがとうございました。

ほどよい道幅と商店の丈(建物の高さ)、このバランスで心地良い街路空間が形成されるのだという。キラキラ橋商店街はまさにそんな居心地のいい通り。ゆるく曲がって見通せない道は、この先に何が
あるかな〜とワクワクさせてくれる。明治通りに面した入口は気がつかずに通り過ぎてしまうほど狭くて目立たないが、中に入ったとたんに豊かな空間が出現する不思議な別世界。入口すぐの揚げ物屋の店先に並んだ串揚げに早速、目が吸い寄せられる。6本入パック300円、安い!こんな商店街が家のそばにあったらどんなに楽しいことだろう。



中島先生のご案内で京島商店街周辺のあちこちを見て回った。奇跡的に戦災に生き残った古い木造住宅「墨東長屋」はギャラリーやカフェ、雑貨店に改修されて若者が街に活気を生み出している。コミュニティ住宅という言葉も初めて聞いた。墨田区は阪神大震災が起きるよりもっと前から、災害で住む家を無くした人たちのための災害住宅を建ててきたそうだ。まず最初に、そこにもともと住んでいた人たちが入居。その後、空き家になっても次の人を入れずに空き家のまま、災害住宅としてとっておくという壮大な計画なのだそうだ。コミュニティ住宅と呼ばれるそんな集合住宅が街のあちこちに建っている。

ランチは商店街の中ほどの、居宅介護支援事業所を併設しているすみまめカフェ。おしゃれな店内で食後の珈琲をいただきながら店長さんに設立のご苦労や熱い志などをお聞きする。



最後に中島先生の居場所であるキラキラ茶家へ。キラキラ商店街事務局長の大和さんのお話も熱がこもっていた。私以外はみな、昨年9月の定例会で中島さんのお話を聞いているのでよくわかっていたと思うが、私は帰ってから資料をひっくり返して、そういうことだったのか〜と納得することが多かった。既存商店街として頑張っているキラキラ橋商店街には広い世代を受け入れる居場所があり、人が暮らしている生き生きした街の魅力にあふれていた。編集長の荻谷さんが届けてくださった地域情報誌「すみだノート」もおしゃれで充実した内容。

ご案内の中島先生、お忙しい中ご説明くださった京島を愛する地元の方々、定例会担当の皆様、充実した見学会をありがとうございました。また、準備を重ねてくださった東さんが参加されなかったのが本当に残念でした。東さん、どうもありがとうございました。

9日の定例会は他用あり参加できませんでしたが、奇跡のまち「京島」とはどんなところなんだろう、なぜ関東大震災でも、東京大空襲でも焼け残ることができたんだろう、との疑問や好奇心に押されて、翌10日に『キラキラ茶家』の催しに参加しました。

残念ながら、焼け残った理由は、地理的要因以外に解明できていないとのことでしたが、3月10日は74年前の夜に東京大空襲が起きた日。京島は焼け残りましたが、西側の向島は焼けてしまいました。その向島（当時は小梅という町名）で暮らしていた昭和5年生まれのお誕生日が来て89歳になられたばかりの星野雅子さんが、東京大空襲時のお話を下さるというスペシャル企画がこの日は組まれていました。

蝶々舞う刺繍が細く入った黒のベストにサクランボのブローチという星野さんのセンスにまず惹かれ、立っていた方が声が出るからと、1時間半以上ずっと立って発声明瞭でしっかり言葉を選んでお話しされる姿にも惹き付けられて行きました。長年共に語り継ぐ活動をして来られたご主人の遺志を継いで、一人でも続けて行くという気骨からでしょうか。

お話を通じて、この二の舞を踏まないための分かりやすい対策などはなく、一人ひとりが世間にアンテナを張って、しっかり自分で考えて、戦争をしない世界となるよう行動することが重要と伝えて頂いたように思います。

これからも頑張ってお話をして続けたい、若い人に聞いて欲しい、次世代に語り継いで欲しい、2、3人の会でも構わないからどうぞ呼んで下さいと仰っていました。



追記：橘館通りの曲がり角に立ち、道行く人にイベントへの参加呼び込みを行っている中島明子さんの姿が素敵でした。